

アイユーゴー 通信 第15号

申し込み・問い合わせ先：アイユーゴー 一途上国の人と共に 事務局

住所：590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18 TEL：072-452-8340 FAX:072-452-5680・090-9167-7053 (新田)

振込先：[アイユーゴー ダイヒョウリジ ニッタサチオ]

ゆうちょ銀行：00980-2-71223 / 三菱東京UFJ銀行阿倍野支店：6,921,467 / 三井住友銀行佐野支店：7,260,788

e-mail：snittaskmj0715@yahoo.co.jp homepage：<http://aiyugo.fc2web.com> (設立：2001/10/15)

発行 新田 幸夫 編集長 加藤 鐘三 発行者(株)フジカク

目次

- (1) 2010年の活動は、
～アイユーゴー代表 新田 幸夫～
- (2) タイ北部でのフェンス設置事業の視察と
モニタリングの報告
～アイユーゴー理事 大原 泰昭～
- (3) NGO サクラとアイユーゴーの協力関係について、
～NGO SAKURA Member
ラコトウマナナ ハジャニリナ (H. F. RAKOTOMANANA) ～
- (4) アイユーゴー理事紹介 アイユーゴーと私
～アイユーゴー理事 大槻 泰士～
- (5) 2009年度収支決算・事業報告
- (6) 近藤さん・福田さん・近藤さん・を偲んで、
～アイユーゴー副代表 中西 省吾～



2010年アイユーゴーの活動は

～アイユーゴー代表 新田 幸夫～

いつもアイユーゴーの活動にご理解とご支援いただき、心よりお礼申し上げます。2010年度の総会が、5月9日(日)に京都府国際センター(駅ビル7F)で開催され、2009年度の事業報告と収支決算が報告され、2010年度の事業計画と予算を審議し承認されました。新たな活動が始まっています。世界的に経済や政治が流動し、どの国も自分の国だけで安定した経済を運営することが困難になってきているように思われます。地球は一つかと実感させられるこのごろです。大変な状況ではありますが、どうか今後ともご支援くださいますようよろしくお願いいたします。



タイ北部でのフェンス設置事業の視察とモニタリングの報告

～アイユーゴー理事 大原泰昭理事 (大原建設(株)代表取締役)～

貧困農村(少数民族)に対する有機栽培指導による生活向上支援(タイ・メーホンソン県)として、野生動物などの被害から守る目的とした、フェンス設置事業の完成に伴い、2010年3月13日～17日にかけて現地に行っていました。(国際ボランティア貯金による)



フェンスは計画通り設置され、野生動物などの被害から守る等の目的も達成され、村人も安心して活動できる環境が整い、セ

ンター全体としての外観も整えられ意義のある事業が実践されたと思います。また、「事業の完了に伴って、パイロットファームでの乾期をテーマにした農業実施指導による村民の生活の変化。」として、モニタリングをまとめ報告いたします。

同センター長(ソムヨッツ氏)からのセンターの運営について

1. センターのフェンス設置により、パイロットファームとしての内部・外部の意識が向上し、農業センターとしてのランドマークとなった。
2. 研修を受ける為、バンマパー群、タムロード区と近隣の少数民族38村から参加者が終結している。
3. 農業用水の指導(溜め池)の活用の重要性
4. コーヒーの苗木栽培、試験栽培(ニンニク・小豆・キャベツ・マンゴ・ニーム等)、肥料作りを参加村民と行ってきた。
5. コーヒーの苗木を各村へ持ち帰り、植樹・栽培開始
6. 各村での野菜栽培の実施開始
7. 2002年に本会が協力した、ラジャプラジャヌグロ34学校にコーヒーの苗木を植樹し学生にコーヒー栽培から収穫の講義を開催した。

※38村：シャン族とモン族・リス族・黒ラフ族・赤ラフ族・カレン族・ワー族パオー族の少数民族の村々 計38村

※ラジャプラジャヌグロ34：麻薬撲滅を願って、麻薬文化から子どもを守るためにタイ王室が運営する学校。本会は2002年に東海地区のJCのGTS事業において図書館建設をコーディネートした。

村民の変化について

1. 苗木・肥料・野菜の栽培方法の指導により、各村での実践が開始され、成功例や失敗例の報告により各村と村民の農業への取り組み方が向上した。

2. 収穫～出荷～販売により収益が実現（一部の村）

- ・メウモン村：コーヒーの収穫が可能であり、実践成功例としてコーヒーセンターとしての役割がある。
- ・バントライ村：川の近くの村でダムがあるため安定した栽培が可能であり現在キャベツの収穫が間近である。
- ・メランジャン村：水が無いとため、雨季のみの栽培であるが、ニンニクや小豆の栽培が実践されている。

3. 生息している物を刈るという生活から栽培し育てて収穫する意識が高まった。

今後の課題

1. 乾期にも安定して栽培・収穫するためには、最低限の農業水の確保が必要である。その為、センターでは導水計画や溜め池等の指導も行ってきたが、水路や汲み上げポンプ等全ての村で完備することは困難である。
2. 水問題の解決と水資源の無い村でも栽培可能な植物の研究・実践が必要。



ワナルボン村での建設途中の溜め池

今後の課題として、

昨年4月の視察に比べ、フェンスも設置され、センターとして外観も整えられていました。ソムヨツツ氏の話をお聞きし、成功例や失敗例を参加村民で共有し、パイロットファーム（農業のランドマーク）としての役割を充分果たしていると感じました。

水の問題や各村が自立して収益を上げられるまでには、時間を要すると思いますが、タムロード区の人々の経済的自立を図ることに大きく寄与することができた事業であったと思います。

NGOサクラとアイユーゴーの協力関係について

ラコトウマナナ ハジャニリナ (NGO SAKURA マダガスカル)
 -2009年12月1日から2010年5月31日まで京都大学客員教授として赴任-

NGO サクラは、日本の大学で学位を得た後マダガスカルへ戻り、母国と日本の関係向上を目標とする人々の集まりです。サクラとアイユーゴーの関係は、2007年に熊取町消防本部からモラマンガ市(首都アンタナナリボから東へ100キロ)へ救急車を寄付された



ことに始まりました。両団体の協力は、その後2009年に、フィハオナナ(首都から西へ約70キロ)における農林業プロジェクト(パイナップル、シナモンプランテーション)へと発展しました。このプロジェクトの目的は、フィハオナナの農村地域における貧しい伝統的農業従事者の援助にありました。5つの農村(フィレレナナ、ソアナヴェラ、フィハオナナ、ティマニナズィ、マハラヴォ)から36の家族がプロジェクトに参加しました。

現在では、この農林業プロジェクトは地域で好評で、多くの家族がこのプロジェクトへの参加を希望しています。サクラは、アイユーゴーと協力して、このプロジェクトを他地域の他の家族へ広げる計画をしています。



アンタナナポリの町並み

両団体の相互信頼と友好に基づき関係は良好です。将来この協力は、アイユーゴーのような海外のNGOとの協力関係の成功例となり、マダガスカルの子供達を援助するにあたって、大きな影響を持つ先例となることを確信しております。



ソムヨツツ氏による活動報告(苗木栽培・農業指導・肥料作成等)



コウモリの糞を利用したの肥料



コーヒーの苗木



少量の水での試験栽培(左:キャベツ 右:ニンニク)



左:バントライ村のキャベツの栽培風景(近くの川から素掘りの水路で導水している。)



右:400平方メートルの畑でキャベツを1200kg収穫
キャベツ収穫後、キュウリの栽培を行い、雨季はお米を育てる予定。



サクラのメンバーと植林担当の村人



マダガスカルの村人たち

2009年度収支決算・事業報告について

平成22年5月9日 京都にて22年度総会が行われ、2009年度決算報告・事業報告について承認されましたので、ご報告いたします。合わせて、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

2009年度収支決算

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

科目	決算額 (単位 円)
1. 会費収入	721,000
2. 寄付金収入	9,426,000
3. 助成金収入	5,340,000
4. 自主事業収入	1,225,840
5. 雑収入	509
6. 繰越金	567,635
7. 借入金	191,549
8. 未収入金	500,000
収入合計 (A)	17,972,533
I 事業費	
1. 資材費	9,6876,083
2. 現地事業運営費	1,306,704
3. 現地スタッフ経費	657,771
4. スタッフ・専門家派遣経費	4,174,039
5. 事前調査費	0
6. 現地管理費	0
事業費小計	15,825,597
II 事務管理費	
1. 事務所管理費	675,397
2. 交通費	119,360
3. 宿泊費	49,800
4. 食事費	18,409
5. 協力費	20,000
6. 会議費	28,135
事務管理費小計	911,101
支出合計 (B)	16,736,698

2009年度事業報告

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(1) 教育支援プロジェクト

- (i) ラオス中西部における小学校建設 (2010年度事業へ)
- (ii) ラオス中西部における図書館建設 (2010年度事業へ)
- (iii) マダガスカル首都アンタナナリボ日本語学校建設
＜図書館建設への移行を検討中＞

(2) 農業地域開発プロジェクト

- (i) ラオス中南部における農民の自立支援と森林保護のための農村開発 (地球環境基金)



- (ii) ラオス中南部における森林保護のための給水施設の設置事業
- (iii) ラオス中西部における農業情報支援センターにおける農民のためのパイロットファーム建設 (緑の募金)
- (iv) タイ北部山岳民族のためのパイロットファーム建設
(国際ボランティア貯金寄附金) <大原レポート参照>
- (v) ベトナムの農民のための農業支援センターの建設及び運営指導、有機栽培・衛生講習の実施 (国際ボランティア貯金寄附金)



- (vi) マダガスカルの環境保全のための植林と農業支援
(国際ボランティア貯金)

(3) 神戸大学大学院保健学研究科との共同事業

保健医療と社会福祉の合同セミナー (三菱UFJ国際財団)



(4) 日本の国際協力事業へのアドバイザーとしての参画

(5) 自主事業 (ワークキャンプ)

- 本会での事業現場で、村人と文化・技術の交換を通じた交流。
- (i) ベトナムの農業センターにおいて食育文化交流 (次年度へ)
 - (ii) タイ北部の少数民族との文化交流 (次年度へ)
 - (iii) ラオスにおける保健医療と社会福祉の4カ国合同セミナー
＜三木明徳副代表理事レポート参照＞
 - (iv) マダガスカルの農業支援 (パイナップルを植えよう) (次年度へ)
 - (v) その他

* 寄附金: 国際ボランティア貯金 (868万8千円)

* 助成金: 地球環境基金 (220万円)、緑の募金 (100万円)、三菱UFJ国際財団 (114万円)、ひろしま祈りの石国際教育財団 (150万円)

アイユーゴー理事紹介

アイユーゴー理事 大槻 泰士

アイユーゴーとの出会いは、以前 NICCO という NGO に新田代表が在籍されていたことが最初の縁。当時、私はまだ学生インターンで、一番印象に残った活動はベトナムへのスタディーツアーの企画でした。共にメンバーだった各務さん(現理事)や新田さんを含め「よりよい社会を作る為には?」「幸せとは?」など熱く議論していた毎日を思い出します。



あれからもう10年以上の歳月が経ち、一社会人としての生活に追われる日々を過ごしていました。2年ほど前にアイユーゴーへの参画のお誘いを頂きましたが、この1年間も仕事漬け、時には泊り込み、休日返上で働き通しの日々「何の為に働いているのだろうか? 生きているのだろうか?」と思うこともしばしば。そんな折、活動の話聞くにつけ「自分は教育も受けられ、仕事もあり幸せだなあ」と「生かされている」ことに感謝の念を抱きつつ、自分も何かお役に立てればと想っていますが、実際にはまだ大して何も貢献できてはおりません。

現在は「(年齢も職業も国籍も多様な方々が参加しているので)各自が出来る立場で出来ることで協力するスタンスでやっていきましょう」との代表の言葉に救われています。

今後はこうしてまた一緒に活動ができることを新たな喜びとし、社会人になってから得た経験を活かし、今の自分だからこそできる活動を通して「現地(との距離)をより身近にできれば。輪を広げていければ。」と考えています。

近藤様、福田様、田中様を偲んで、

アイユーゴー副代表 中西省吾

去る、2009年12月6日 監事 近藤 友三様が、2009年12月24日 顧問 福田 新様が、2010年4月9日 元顧問 田中 正明様のご逝去されました。3名様はアイユーゴーの設立準備から設立(2001年10月15日)、そして今日までアイユーゴーの発展に寄与下さいました。会員の皆様と共に謹んで哀悼の意を表します。3名様のご遺族様に心からお悔やみ申し上げます。

監事 近藤 友三様は、薬剤師として大変お忙しい中、アイユーゴー設立時より監事として会計の要を担って頂きました。新田代表には信頼できる地元のお一人であり、事業にいつも深い関心をお持ちでよく代表と会食されたと聞いています。代表は「とても大切な方を失い、寂しい思いでいっぱいです。」と述べておられます。

顧問 福田 新様は、アイユーゴー設立時は副会長として、そして晩年は顧問として以前の NGO 活動経験を元に会員の指導に携わって頂きました。顧問はアイユーゴー通信第2号に「恵まれない途上国の人々に生きる希望と力を与え、共に心から人間として友好の素晴らしさを分かち合えたことをご報告出来ることは何よりも感謝と喜びに尽きます。」と気持ちを述べられています。

元顧問 田中 正明様は、アイユーゴー設立前より新田代表の相談役として、設立後は顧問として、ご指導を賜りました。また、

アイユーゴー通信の監修もして頂きました。田中顧問は第1号発刊に於いて「理事の方々は、医者、会社経営者、技術者と若々しさにあふれた多才な顔ぶれで、このメンバーであれば本事業は必ず成功すると同時に今後の発展に期待できると確信いたしました。」「事業が成功することによって『途上国の人々』が喜び且つ感謝された我々アイユーゴーのメンバーも事業に参加できたことを誇りにしようではありませんか。成功するために頑張りましょう。」と述べられています。

最後に、長年お世話になった3名様に感謝と尊敬の誠を捧げると共に、3名様のご意思を大切に、活動を続けていきたいと思っております。 合掌



熱く語る、左 福田さん 右 近藤さん



三人を中央に囲んでアイユーゴーメンバーとの写真



楽しさ一杯の写真(左 福田さん 3人目近藤さん)

【感謝】

アイユーゴー通信をご覧いただきまして、誠にありがとうございます。アイユーゴーは、自らの知識・技術・経験と奉仕の精神を持って、協力を必要とする人たちの自立を目指した開発援助を通じて、その地の文化を尊重理解し、草の根の友好親善と、自らの人間としての価値を高めることを目的とし活動します。そして、現地の人たちと更なる信頼関係のもとで活動ができるように現在、法人化取得に向けて準備を進めています。今後も皆様のご支援・ご協力を心からお願いいたします。

e-mail: snittaskmj0715@yahoo.co.jp homepage: <http://aiyugo.fc2web.com>